

発表テーマ

副読本『自然はおもしろい』及び「写真シート」の活用と改訂にむけて

1 はじめに

『自然はおもしろい』は、市内の全小学校3年生に配布されている副読本である。巻末には、各校の〈春の校庭の草花〉と〈秋の校庭の樹木〉が掲載された「写真シート」を添付している。

座間の自然研究会では、これらの教材を活用した授業実践の研究を重ね、研修講座等を通して教員へ情報提供を行ってきた。同時に、身近な自然の変化に対応し、子どもたちにとってより親しみやすい教材となるよう研究を進めてきた。

2 研究の経緯

(1) 『自然はおもしろい』作成の工夫

この本の特色は、「自然に親しむ」ために、子どもたちにとって身近なテーマを取り上げ、読み物風に記述されているところである。読み物の中で「問題」を提示し、予想を立て、わかりやすく答えを解説する展開など、子どもたちが興味を持って自力で読み進められるよう話の構成を工夫している。

(2) 「写真シート」作成の背景

座間市では、急激な工場進出や宅地開発に伴い、地域の中で最も身近で自然が豊かな場所が「学校の校庭」という地域も少なくない。そこで、最も豊かな【自然の宝庫】でもある「校庭の自然(植物)」の教材化を図り、最大限に活用する研究を重ねてきた。その具体化された物が、〈春の校庭の草花〉と〈秋の校庭の樹木〉の「写真シート」である。

3 研究の内容

(1) 『自然はおもしろい』を活用した授業実践

校庭の自然も変化している。たとえば、今まで無かった植物が入ってくる、すなわち帰化植物による変化がある。そこで、「校庭の帰化植物を探してみよう」を使った授業実践を行った。

4年前、「春の校庭の草花・写真シート」に載っていないナガミヒナゲシの花に興味を持った子どもたちと一緒に「校庭の帰化植物を探してみよう」を読み、実際に学校の地図を持って分布調査を行った。すると、校庭の南側を囲むように、たくさんのナガミヒナゲシが分布していることがわかった。今年も改めて同じ調査を実施してみたところ、ナガミヒナゲシの花が減っていたり、逆に急激に増えていたり場所により大きな変化が見られた。これには、環境整備など人為的な影響が大きく関係していると考えられる。

(2) 「写真シート」を活用した授業実践

「秋の校庭の樹木・写真シート」を使って特別支援級の子どもたちと校庭散歩を行った。子どもたちは、色鮮やかな葉に関心を持ち、お気に入りの落ち葉集めを始めた。そこで、それを使って〈落ち葉のしおり〉を作り、プレゼントとして活用した。同様に、拾ってきたどんぐりやマツボックリを材料として、〈クリスマスリース〉や〈秋の写真立て〉といった図工の作品作りに活用した。

4 成果と課題

今回の研究を通して、『自然はおもしろい』を読み物として読み進めるだけでなく、子どもの興味・関心から、さらに学習を広げていくことができるということが確認できた。また、校庭の自然の変化にも目を向け、時間を追ってその変化を調査していくことの必要性を感じた。

植物に詳しい教師でないと、「野外に出て、植物観察をする」という活動は、ハードルの高いことでもある。しかし、「写真シート」を手にして、校庭の草花や樹木を探すことなら、誰にとっても取り組みやすい活動になると感じた。「校庭散歩」をしている子どもたちは、普段見せないような能力を発揮する。そんな子どもたちの姿を目にすることができる「校庭散歩」は、教員にとって「たいへん意義のある貴重な機会である」ということができる。

5 今後に向けて

「写真シート」をより効果的に活用できるように学校ごとの「樹木解説」を作成している。校庭の樹木について、樹木に関する知識を補いつつ、子どもたちの前で話をする教員の手助けとなるよう情報を整理し、各学校へ配布していく予定である。

また、『自然はおもしろい』の読み物について、子どもたちから〈評価〉と〈感想〉を取るよう各校に依頼している。

今後も、子どもたちにとって親しみやすく、教員にとっても活用できる副読本を目指して改訂作業に本格的に取り組んでいきたいと考えている。